

# オピニオン opinion



○都留機械金属工業協同組合

理事長 井上敬一氏

## 安くても「かずもの」とは

都留地域の製造業は、戦前に郡内織物織機の修理や部品の製造から始まり、次第に産業機械全般の一部を担う部品加工型の産業として発展してきました。

昭和40年代以降は高度経済成長と中央道の開通に伴い首都圏との取引が増え、プレス・プラスチック・ダイキャストなど金型による大量生産型企業、続いてその金型や部品などを扱う旋盤・フライスなどを中心とする切削加工型企業が誕生し成長・拡大を続けてきました。そして、都留市の機械金属業34社により昭和46年に都留機械金属工業協同組合が設立され現在に至っています。

私自身も昭和50年代前半、20歳代に組合に加入し、先輩経営者の皆様から多くのことを教えていただきました。特に印象にあるのが「安くてもかずもの」という言葉です。「ものづくりでは、受注した仕事で最初は利益が出なくても、半年、1年と数を作り続けることで必ず知恵と工夫により改善され利益が出るようになる」とよく言われ、今でもその言葉は忘れません。

現在は、ものづくりでは生産拠点が海外に流出し、国内では「かずもの」と言われる大量生産型の製造は少なくなり、ものづくりではコストやスピードが重視され、小規模の事業所でもものづくりを行うことが困難な時代になりつつあります。ものづくりに知恵と工夫を長い間心血を注いできた経営者にとっては、自分が培ってきた職人的技術を次の世代に伝えることができなくなることはさみしい限りです。

これからは、次々と新しい技術や産業が生まれてきます。特にIT産業は拡大方向にあり無限の可能性があると说着ても過言ではなく、その中に新たなものづくりの知恵と工夫を生かせるチャンスが潜んでいると思います。

今年7月の圏央道延伸も、都留地域の製造業にとっては首都圏の取引先の拡大を通じて海外との取引につながるチャンスになる可能性もあると期待しています。